

戒能通孝 かいのりゆう 辯護士、民法學者、法學博士。明治四十一年五月二十

十日長野縣生れ、昭和五十年二月二十一日歿（一九六〇・七五）。第五高等

學校を経て、昭和五年東京帝國大學法學部卒。戦後東京裁判の辯護人

となる。二十四年早稲田大學教授、二十九年東京都立大學教授、三十

九年小幡事件辯護人、四十四年東京都公害研究所初代所長。

著書『古典的世界の没落と基督教』(昭和二十二年五月十日雄鶏社)、

『群衆の悲劇—現代史の断面』(昭和二十二年九月一日徳高書房)、

『自由人の聲』(合著・日本放送協會編、昭和二十四年五月二十日刀

江書院)、『法律の階級性』(昭和二十五年四月二十日弘文堂「ア

テナ文庫」)、『インテリゲンチヤ』(昭和二十五年六月二十日改

造社)、『講和—その後の日本』(合著・科學者平和問題懇談會、昭

和二十五年七月十日東京大學協同組合出版部)、『裁判』(昭和二十

六年五月十五日岩波書店「岩波新書」)、『學生生活』(合著・大河

内一男編、昭和二十七年五月二十日新評論社)、『法廷技術』(昭

和二十七年十月十五日岩波書店)、『法律學辭典』(編、昭和二十八

年一月十五日弘文堂「アテナ文庫」)、『群衆』(昭和二十八年三月

二十日近世書房)、『教育を守るため』(合著・關口泰編、昭和二十

九年一月二十日八日松木書房)、『危

機はここから来く』(合著・吉

野源二郎編、昭和二十九年二月二十

日厚文社)、『法律入門』(昭和三十

十年一月二十日岩波書店「岩波新

書」)、『法律』(編、昭和三十年

群衆の悲劇 現代史の断面 戒能通孝著

戒能通孝著  
群衆の悲劇  
—現代史の断面—

没落過程の現實  
を剔抉する！

本書は秘められ  
た國際裁判諸資  
料の下、現代史  
の神秘性を衝き  
眞の民主精神の  
在方を力強くも  
示唆する

九月二十八日岩波書店「岩波小辞典」）、『日本の裁判』（編、昭和二十一年）二月十日京都・法津文化社「新文化選書」）、『恋愛と結婚』（合著・龜井勝一郎編、昭和二十二年）二月十日毎日新聞社「毎日ライブラリー」）、『ふみぶえの暗黒―警察国家への危機』（合著・中村切秀雄<sup>哲</sup>編、昭和二十二年十一月二十五日第一評論社）、『警察権』（編、昭和二十五年）二月二十六日岩波書店）、『人權の思想』（合著・高桑純夫編、昭和二十七年二月二十日毎日新聞社「毎日ライブラリー」）、『小繋事件―二代むめたる入会権紛争』（昭和二十九年）二月二十日岩波書店「岩波新書」）、『現代法の学び方』（共編、昭和四十四年四月二十日岩波書店「岩波新書」）等。